

●「とこしえに真実なお方」 ●ルーマニアの大賛美者の死

お元気でいらっしゃいますか？

まず初めに、このたびの新潟県中越沖地震で被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。お一人一人に主イエス様からの励ましと慰めが豊かにありますように、また速やかな回復が与えられますようにお祈りいたします。

私は7月10日～15日、スペインのタラゴナ市で行われた音楽セミナーに参加し、15日には早めにセミナーを切り上げて、バルセロナの「日本語で聖書を読む会」に参加、そこで証しをさせていただきました。バルセロナの集会では、実に幸いなお交わりのひとときを持たせていただきました。そのときのことが、「聖書を読む会」のブログとHPに掲載されていますので、是非お読みになってみてください。



<http://barcelonajugem.jp> (blog) [www.pihkala.net/madrid](http://www.pihkala.net/madrid) (左コラムからバルセロナを選択、合わせてマドリッド集会のコーナーもお読みください)

どうぞ主がバルセロナ日本語集会を導き、さらに祝福してくださいませようお祈りください。また、集会のために献身的に仕えておられる下山由紀子さんとそのご家族のためにもお祈りお支えください。



写真右上：タラゴナの城壁。タラゴナは3世紀にローマ人が入植して建てた町で、当時 100 万人の人口を所有するイベリア半島最大の町であった。今なお、城壁、円形劇場、野外劇場、神殿、水道橋の遺跡が数多く残っている。

写真下：バルセロナ日本語で聖書を読む会の皆さんと、主宰者の下山さん宅にて。右から下山由紀子さん、ピアニストの鈴木羊子さん、私、ヴァイオリニストの大井阿貴子さん

---

●「とこしえに真実なお方」

この後、2日ほどバルセロナに滞在してからハンブルクに戻りました。丁度、飛行機の到着時間が、マドリッドからハンブルクに戻った教会の姉妹ベゴーニャと同じ頃だったので、やはり教会の姉妹であるウーテが私たち二人を空港まで迎えに来てくれました。それからウーテの家で祈りのひとときを持ちました。私にとっては、15日のバルセロナでの集会以外は、この世一色の毎日だったので、霊のオアシスに戻ったような気持ちでした。

そこでウーテが私にこう質問したのです。

「スペインでは、主に真実を尽くして歩むことができましたか？」

実は、これが私がスペイン行きに際して、彼女にお願いした祈祷課題でした。

タラゴナでは、友人宅に私を含めて5人もの人たちが宿泊させてもらっていた中、一日中セミナー、夜はコンサートといった毎日で、聖書を読めない日もあり、静まって祈ることすらほとんど出来ませんでした。けれども、心はいつも主のことを思っていたのです。セミナーに参加していても、コンサートを聞いていても、いつも主が共にいてくださることに感謝し、主を喜んでいる、そのような一週間でありました。有名な黒人霊歌 *Ev'ry time I feel the spirit* と歌った黒人たちは、苦役にあえぎながら、聖書もろくに読めずとも(多分多くの者は文字も読めなかったことでしょう)、いつも主を仰いでいたからこそ、御霊を感じていたのだと思われたのです。

それで、友人に「スペインでは、主に真実を尽くして歩むことができましたか？」に聞かれた時、「うん、そのように歩むことが出来て感謝だった。祈ってくれてありがとう！」と答えました。その瞬間、ハッとしました。私が主に真実を尽くしたのではない、そうではなくて、主が私と姉妹たちの祈りに応えて真実を尽くしてくださったのだ、ということに気付いたのです。あわてて姉妹たちにそう答え直しました。

旧約聖書の民たちは、「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」と歌って、神をほめたたえました。その「恵み」は、ドイツ語では、「真実」となっています。何度も神に逆らってきた民たちは、忍耐をもって彼らを諭し導き、いつくしみと恵みを与えてくださった神の真実を実感してきたに違いありません。「とこしえに真実なお方」、その神のお姿を、深く感じた瞬間でありました。

写真右:リヒテンシュタインの羊。松林幸二郎さん撮影

## ●ルーマニアの大賛美者の死



ところで、こちらに戻りましたら、ルーマニアで福音宣教をしておられる川井勝太郎宣教師より、ルーマニアの偉大な賛美者、モルドビヤヌ氏が亡くなられたことを知らされました。私も、何年も前から「ルーマニアの偉大な賛美者、神のしもべ」としてうわさを聞いていた方で、是非、一度お会いしたいと思っていた方です。以下、川井宣教師からのメールを抜粋して貼り付けさせていただきます。(青字の部分、原文のまま)

今年で85歳になられたニコラエ・モルドビヤヌ先生が、先週12日早朝、突然主のもとにお帰りになりました。土曜日にお葬式で、(私は行けず弔電しか打てなかったのですが)多くの兄弟姉妹が最後のお別れをしたそうです。モルドビヤヌ先生はリチャード・ウォムブラント師などと共に投獄され、片腕が完全に使えなくなるほどの迫害を受けたにも関わらず、4千曲とも言われる珠玉の賛美を獄中時代から作曲し続けて来た賛美歌作者であり、神学者であり、詩人でもあ

られました。革命後は開放され、シビウと言う街に与えられた小さな家で訪ねて来た兄弟姉妹達に、「5分だけ」と言いながら、毎回1時間以上の素晴らしい交わりの時を持ちながら、日々働き人たちを励まして来られました。私も何度か訪ねた事がありますが、是非篤子さんにもお会いして欲しかった方の一人ですが、残念です。共産主義の迫害を通して、生きるか死ぬかの所を信仰を持って生き抜いた一人の信仰者がまた一人天に帰って行きました。

もうこの地上ではお会いできなくなりましたが、イエス様も天使たちも、先に天に迎え入れられた聖徒たちも、大喜びで「この主の忠実なしもべ」を天に迎え入れたことでしょう。彼の賛美歌は、これから、世界中で歌われてゆくようになるような気がしてなりません。いつか機会がありましたら、私も是非、皆さんにモルドビヤ氏の賛美をご紹介しますようと思っています。

写真:モルドビヤご夫妻。川井勝太郎宣教師撮影、提供

---

## ●お祈りください

◎数日前、私の手元にもやっと新刊「賛美のころ」が届きました。沢山の方々のご協力とお祈りを得ながら、一年を経て出版に至った本ですので、ほんとうに感謝に絶えません。日本の皆様には、是非お買い求めいただき、お読みいただければ幸いです。また、お知り合いの方にもご紹介いただけますなら感謝です。ご希望の方は、事務局にご連絡くださるか、お近くのキリスト教書店でお求めください。そしてこの本が主のご栄光のために用いられますようどうかお祈りください。

◎8月1日～5日、ミラノで行われる「ヨーロッパ・キリスト者の集い」に参加いたします。私は、『賛美隊』（これ、いい名前だと思いませんか？）の一員として賛美奉仕をさせていただくことになっています。どうぞ集会の祝福のためにお祈りください。

◎その後、8月13日には、いよいよブラジルへ向かいます。18日に起こったサンパウロ空港での飛行機事故で、当地の方々も緊張感を覚えていらっしゃるようです。どうぞ、その中で、神の愛と御霊の力によって、大胆に主を証しし、賛美することが出来ますよう、お祈りください。

北半球は夏、南半球は真冬の時ですが、どうぞ、それぞれの地で、今週も主を見上げつつ歩んでまいりましょう！

皆様の祝福を心からお祈りしています。

工藤篤子